

まち活① つうしん

ねりままちづくりセンター

取材/2009年10月18日

——米軍施設「グラントハイツ」跡地につくられたまち、光が丘。25年経った今、「自分たちのまちを『ふるさと』といえるように！」と活動している人たちがいます。光が丘まちづくりフォーラムは、平成15年から地域コミュニケーションの充実を図るため、まち歩きやCMコンテスト等を実施しています。今年度は、光が丘の区立春の風公園・かえる池にて『ミニ水族館』を開催。さて、どんないきものがいるのかな…？

ミニ水族館へようこそ。

「いきものは年齢層を問わないから、反応はとってもいいね」とメンバー・永井さんの言葉のとおり、通りすがりに足を止めて水槽の中を覗き込む方、カルガモ親子のファンでかえる池をよく訪れるという方、柵に貼ってあったチラシを見て来たという子どもたちなど、老若男女が入れ替わり立ち代り、およそ30名が訪れていました。秋の

初め、ポカポカしたお日様の下、鯉が悠々と泳いでいます。

夢のタウン、光が丘

この広大な光が丘公園を中心としたパークタウンが整備され始めたのは1981年。当時の光が丘は、商店街や地下鉄、学校そして公園が次々につくり上げられ、新しいもので溢れていた





は、こうした整備の一環で、1986年にみんなの期待を膨らませながら、まちの憩いの場として誕生したのです。

それから20年あまり経った今、一体池の中の状態はどのようになっているのでしょうか。そこで、光が丘まちづくりフォーラムは、池からあがった生きものを水槽に入れて、『ミニ水族館』を開催することにしました。かえる池の生きものについて詳しく調べることで、身近な環境について関心を高めたいと期待を寄せています。

水槽中にいるものは…

至るところにカメ。ブラックバスにブルーギル。薄ピンク色の口がパクパク動いているのは…



のでしょうか。「近くの公園を工事したから、『ローラースケート場ができるのかしら?』と思っていたのよ!」と、この団体の代表を務める高原さんは、当時のことを振り返ります。しばらくすると、そこには水が張られ、水を循環するための風車を取り付けられました。区立春の風公園・かえる池

▶かえる池ができたころ、茨城から持ち込まれたカエルのタマゴは、5000匹。

なんと、ナマズ!とにかく、圧倒的に多いのは、カメの中でもミシシippiaカミミガメ。日本には本来生息しない、外国から連れて来られた『外来種』が多く繁殖していました。かえる池という名も空しく、今はカメが心地よく暮らす、異国の“池”と化していたのです。

元の生態系にもどそう

さて、みんなの思い描く「憩いの場・かえる池」ってどんな所?水族館に集まった人たちにアンケートを取ります。「やっぱり水はきれいな方がいいね」「日本在来のいきものが棲める環境がいいな」と意見が飛び交います。

今後、近隣の住民や学校に呼びかけて、自分達の力で何ができるかを考案し、発信していきたいと思います。」と高原さん。池に、かえるや日本在来の生きものが戻ってくる日は、そう遠くないかもしれません。



かえる池で、普及活動を行いました

—NPO法人生態工房より—

まちづくりフォーラムの方から依頼を頂き、9月と10月の2回、NPO法人生態工房が、現在のかえる池の姿を知るための調査活動を実施しました。特にカメ類に関しては、確認された29頭のうち22頭が外来生物という結果になりました。捕獲された生きものたちを前に、生態工房のスタッフと共に外来生物問題について考えてきた子ども達が、なぜ外来生物がいてはいけないのか、問題を解決するためには何が必要なのか、多くの方に問いかけてくれました。池の生物相をしっかりと調査し、地域本来の自然について考える、そんな機会をこれからも皆さんに提供していきたいと考えています。

▶「サルモネラ菌はカメから」の記事が原因で、池にたくさん捨てられてしまったとか。

団体さん、今日を振り返る。 活動メンバー阿瀬見さんのお話

今回の調査で、私達の憩いの場となる「かえる池」が開設当時の水生生物から何と、予想外の多くの外来生物生息のため、日本人にとって愛らしいカルガモ親子の数が減っている事など悲しい原因が少し見えてきました。ミニ水族館にこられた方達から「綺麗な池」、「外来種は捕獲すべき」との意見が多くありました。光が丘の大事な憩いの場となるべく「蛙池」を今回の調査結果と参加者の貴重なご意見を強力な支援にさせていただき「憩いの場」が再度、実現できるように頑張りたいです。皆様方のご支援に感謝申し上げます。と同時に、地域の皆様にも更に応援していただければと思います。



一人ひとり声をかけてアンケートを集めました。

活動団体基本データ

設立

2003年5月

活動テーマ

まちに住んでいる人たちが、共に生きていく共感が味わえる『心が響き合うまち』をつくりあげていくために、いろいろなコミュニティ活動に取り組んでいくこと。

活動実績

- ・光が丘地区祭に活動報告等の展示(2003-)
- ・練馬の畑で野菜収穫まち歩き(2004)
- ・白子宿の湧水を訪ねて他まち歩き(2005)
- ・光が丘地域の現状と住民のかかわり(2006-まちづくり活動助成事業に参加)
- ・光が丘CMコンテスト(2007)
- ・「まちづくりだより新聞」の発行 他

団体連絡先

03-3976-1891 (高部)

団体拠点案内



活動場所

春の風公園内「かえる池」
(光が丘7丁目4)

練馬まちづくりセンター

発行日 2010年3月8日
取材/編集 練馬まちづくりセンター
デザイン 濱祐斗 [BEACH]
発行元 (財)練馬区都市整備公社 練馬まちづくりセンター
練馬区豊玉北5-29-8 練馬センタービル3階
Tel 03-3993-6451 Fax 03-3993-8070
Email machi@nerimachi.jp Web http://nerimachi.jp

練馬まちづくりセンターは、練馬区民が住み続けたいと思えるような美しい地域環境と豊かな地域社会を実現するために、区民の主体的なまちづくり活動を支援するとともに、区民・事業者・行政から独立し連携を図る、中間的な立場から協働型まちづくり事業を実践する組織です。

これからの展望

活動を通して、 自分達の住む環境を改善しよう

イベントで集めたアンケート結果や意見を行政に提案するには、科学的な裏づけや明確な説明が必要です。そのためにも、NPO法人生態工房への調査依頼は、とても良かったと思います。今後、雨水を入れて池を浄化する方法などを住民と共に探りながら実践し、将来の子どもたちが、恵まれた環境に誇りを持ってくれたら嬉しいです。

今後こんなグループとつながりたい!

光連協ふるさとを創る委員会/生きもの関係
/エコ環境関係/地域福祉関係

活動メンバー紹介

永井 隆 さん



「あれは日本の木・ハンノキだよ」と教えてくれた永井さん。20数年前、子どもに聞かれたのを機に、植物に興味を持ち始めたそう。植物調査とイベントを担当。

國島 良臣 さん



夏の雲公園の清掃をしていたところ、メンバーの竹谷さんにスカウトされ、今年からメンバーの仲間入りをしました。野鳥の会の会員でもあり、鳥に詳しい。

他にもたくさんの方がいらっしゃいます!
是非活動をのぞいてみてくださいね。

練馬まちづくりセンターは“まちづくり活動助成事業”で、光が丘まちづくりフォーラムを応援しています。

まちづくり活動助成事業とは、区民が住み続けたいと思えるような美しい地域環境と豊かな地域社会を実現するために取り組む、区民主体のまちづくり活動への支援を目的としています。



【はばたき部門】助成金額30万円以内

身近な生活空間の保全改善等のために取り組むまちづくり活動への助成



【テーマ部門】助成金額1年目10万円以内 2年目50万円以内

身近な場所で生き物と呼ぶ空間をみんなで楽しみながら創り出す活動への助成



【たまご部門】助成金額3万円以内(年中受付しています)

上記2つの部門の様なまちづくり活動を始める、きっかけづくりや学習会などを開催するための助成